

片頭痛間欠期支障度と中枢神経感作との関連に関する検討

研究分担者 竹島 多賀夫 富永病院頭痛センター 副院長
研究協力者 團野 大介 富永病院頭痛センター 副センター長

研究要旨

片頭痛間欠期の支障度と中枢神経感作との関連について検討するために、片頭痛間欠期の支障度を評価する MIBS-4 (4-item Migraine Interictal Burden Scale) と中枢神経感作を評価する CSI(Central sensitization inventory)を用いて、富永病院頭痛センターに通院もしくは入院中の18歳以上の片頭痛患者200人を対象に、片頭痛間欠期支障度と中枢神経感作との関連について検討する。

A. 研究目的

片頭痛間欠期支障度と中枢神経感作との関連について検討する。

B. 研究方法

片頭痛間欠期の支障度と中枢神経感作との関連について検討するために、片頭痛間欠期の支障度を評価する MIBS-4 (4-item Migraine Interictal Burden Scale) と中枢神経感作を評価する CSI(Central sensitization inventory)を用いて、富永病院頭痛センターに通院もしくは入院中の18歳以上の片頭痛患者200人を対象に、片頭痛間欠期支障度と中枢神経感作との関連について検討する。

(倫理面への配慮)

本研究で収集する情報には個人が特定される情報は含まず匿名化を行ったデータシートを用いる。

C. 研究結果（中間解析）

MIBS-4 が3点以上では CSI スコアが40点以上であり、すでに中枢神経感作が進行した状態であった。また、間欠期支障（MIBS-4）と中枢神経感作（CSI）に正の相関がみられた。

D. 考察

MIBS-4 と CSI に正の相関がみられ、片頭痛発作間欠期の支障と中枢感作の関連が示唆された。

E. 結論

現在中間解析のため未。

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表

Danno D, Ishizaki K, Kikui S, Takeshima T. Treatment of hemiplegic migraine with anti-calcitonin gene-related peptide monoclonal antibodies: A case series in a tertiary-care headache center. *Headache*. 2023

Kikui S, Danno D, Takeshima T. Clinical Profile of Chronic Cluster Headaches in a Regional Headache Center in Japan. *Intern Med*. 2023;62(4):519-525.

Seo J, Tervonen T, Ueda K, Zhang D, Danno D, Tockhorn-Heidenreich A. Discrete Choice Experiment to Understand Japanese Patients' and Physicians' Preferences for Preventive Treatments for Migraine. *Neurol Ther*. 2023 Apr;12(2):651-668.

2. 学会発表

未報告

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他

なし